

2026 年 9 月 30 日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

NS-2260 システムソフトウェア Version 2.0 リリースノート

目次

Version 2.0 (リリース日：2026/9/30)	1
1 IoT セキュリティー対応	1
2 ポートサーバーの両モード動作	2
3 syslog filter 機能	2
4 コマンドログの syslog 転送	3
5 ポートログ syslog 転送時の制御文字削除	3
6 拡張ユーザーの権限追加	3
7 RADIUS、TACACS+認証の def_user オプションを拡張	4
8 logsave 機能の拡張	4
9 REST API 機能の拡張	4
10 シリアルポートごとの最大セッション数の拡張	5
11 未使用ポートのクローズ	5
12 show snmp の状態を表示するコマンドを追加	5
13 trace コマンドへの any オプション追加	5
14 旧バージョンへのダウングレードの禁止	6
15 コマンドのオプションパラメーター表示順の変更	6
16 syslog メッセージが RFC 準拠となっていない不具合の対処	6
17 REST API でパスワードの文字種違反がエラーにならない不具合の修正	6
18 本体ログのメッセージ誤記の修正	7

Version 2.0 (リリース日：2026/9/30)

Version 2.0 では以下の機能拡張、機能改善、不具合修正を行いました。

1 IoT セキュリティー対応

本装置を IoT 機器として運用する際のセキュリティ要件に対応しました。

- ・パスワードポリシーの強化

ユーザーのパスワードに以下の条件を設けました。

条件を満たさないパスワードを指定した場合、パスワードは設定されません。

- 8 文字以上であること
- 英小文字、英大文字、数字、記号の 4 種類のうち 3 種類以上を含むこと

ハッシュ化済みのパスワードを指定する場合は、本条件のチェック対象外となります。

- ・デフォルトパスワードでのネットワークログインの禁止

パスワードが工場出荷時の設定のままである場合、telnet および ftp によるログインを許可しないようにしました。

コンソールポートからのログインは可能です。

- ・認証失敗時の遅延処理

ログイン認証に失敗した場合に一定時間の遅延を挿入し、パスワードの総当たり攻撃に対する耐性を高めました。

- ・ユーザー設定ファイル/各種ログファイルの暗号化

本装置内のフラッシュメモリーに保存する設定ファイルおよびログファイルを、暗号化して格納するようにしました。

対象は、設定ファイル（スタートアップファイル）と、ポートログ・システムログ・logsave コマンドで作成したログファイルです。

メモリーカードに保存する設定ファイルも対象となります。

暗号化と復号は本装置が自動で行うため、コマンドの操作やログの見え方はこれまでと変わりません。

本装置からフラッシュメモリーやメモリーカードを取り出して他の装置やパソコンに接続しても、ファイルの内容を読み出すことはできません。

- ・設定およびログファイル等格納パーティションのデータ完全消去

shutdown コマンドに factoryreset オプションを追加しました。

本オプションを指定すると、設定ファイルおよびログファイルを格納しているパーティションのデータを上書きして消去します。

実行時にメモリーカードが装着されている場合は、メモリーカード内の設定ファイルを格納しているパーティションも消去の対象となります。

通常のファイル削除では、削除した後もデータがフラッシュメモリー上に残ります。

本オプションはデータそのものを上書きするため、フラッシュメモリーやメモリーカードを取り出して解析しても、設定やログの内容を復元できません。

本機能の追加に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。

コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

設定方法の詳細については「取扱説明書」を参照してください。

2 ポートサーバーの両モード動作

direct モード/select モードを同時に動作させる機能を追加しました。
set portd connect コマンドに both を指定することで、両モードが同時に利用可能になります。

本機能の追加に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。
コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

3 syslog filter 機能

syslog(RFC3164) フォーマットの TAG 以降の文字列でフィルタリングすることで、コンソールログおよびコマンドログの送信制御を行うことが可能になりました。

syslog(RFC3164) のフォーマットは以下の通りです。

<PRI>TIMESTAMP HOSTNAME TAG: CONTENT

以下の例では、somebody/0: show stats syslog filter がフィルタリングの対象となります。

<158> Apr 24 09:39:21 NS-2260 somebody/0: show stats syslog filter
--

フィルタリングルールにマッチしたログに対する送信動作は、以下から選択可能です。
なお、マッチしないログは、これまでと同様にデフォルトのセベリティーで転送されます。

- セベリティーを変更して送信する
- 送信しない

本機能の追加に伴いコマンドの新規追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。
コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

4 コマンドログの syslog 転送

システムログ、ポートログに加え、本装置で実行されたコマンドログを syslog 転送できるようになりました。

本機能の追加に伴い、コマンドログの syslog(RFC3164) フォーマットの TAG 部分を「ユーザー名/実行経路」の形式に変更しました。

実行経路は以下の通りです。

- 端末デバイス番号：telnet または SSH でログインした場合
- console：コンソールポートからログインした場合
- webapi：REST API 経由で実行した場合
- system：端末に紐づかない実行の場合

コンソールポートからログインしたユーザー somebody が show syslog を実行した場合、TAG は somebody/console となります。

```
<158> Apr 24 09:39:21 NS-2260 somebody/console: show syslog
```

TAG 部分は「syslog filter 機能」によるフィルタリングの対象となります。

本機能の追加に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

5 ポートログ syslog 転送時の制御文字削除

ポートログを syslog 転送する際に、制御文字を削除して転送可能になりました。

削除対象となる制御文字は ASCII(0x00～1F、7F)、および ANSI エスケープシーケンス (ESC、CSI、OSC、DCS) となります。

ログに含まれる制御文字は文字列として削除され、バックスペース等の制御文字による表示制御動作は行いません。

本機能の追加に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

6 拡張ユーザーの権限追加

拡張ユーザー (extusr) に、全ての show コマンドが実行可能な権限を追加しました。

また、既存の root 権限に加えて、portusr、verup グループの権限が付与可能になりました。

これにより、ポートユーザー権限とバージョンアップユーザー権限を 1 つのアカウントで使用することが可能になります。

本機能の拡張に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

7 RADIUS、TACACS+認証の def_user オプションを拡張

各認証で指定可能なデフォルトユーザーグループを拡張しました。

- RADIUS 認証：「normal」および「normal/portusr 両方」を追加
- TACACS+認証：「normal/portusr 両方」を追加

グループを特定できないユーザーは、指定した def_user オプションに従ってログイン権限が決まります。

- normal：normal(一般ユーザー)としてアクセスが可能
- normal/portusr 両方：normal(一般ユーザー) および portusr(ポートユーザー)としてアクセスが可能

ログイン優先度は normal(一般ユーザー)の方が高いため、複数のアクセス権限が付与されたユーザーでセレクトモードのログインを行うと、一般ユーザーとして本体ログインを行います。

本機能の拡張に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

8 logsave 機能の拡張

logsave コマンドにてポートログをファイル保存する場合に、gzip 圧縮形式が指定可能になりました。

また、logsave コマンドで作成されたファイルを、logdelete コマンドで削除可能になりました。

ファイルを削除しても、本装置に保存しているポートログ自体は削除されません。

本機能の拡張に伴いコマンドの新規追加、コマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。

コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

9 REST API 機能の拡張

REST API 機能で提供する API リソースに以下の3つを追加しました。

- ・ホスト名 (GET、PUT)
- ・CPU/メモリー使用率 (GET)
- ・電源/温度センサー状態 (GET)

本機能の拡張に伴いコマンドの新規追加があります。

各 API リソースの詳細については「REST API 運用ガイド」を参照してください。

コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

10 シリアルポートごとの最大セッション数の拡張

rw:2/ro:3 から rw:10/ro:5 に最大セッション数を拡張しました。
なお、装置全体の最大セッション数の変更はありません。

本仕様変更に伴い一部コマンドの出力内容の変更があります。
コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

11 未使用ポートのクローズ

本体設定で `disable telnetd` かつ `set portd session` で `telnet` が全ての `tty` で指定されていない場合、ポート 23 番を `CLOSE` とするように変更しました。
また、`ssh` も同様に `disable sshd` かつ `set portd session` で `ssh` が全ての `tty` で指定されていない場合、ポート 22 番を `CLOSE` とするように変更しました。

12 show sntp の状態を表示するコマンドを追加

`show sntp` の状態を分かりやすくするため、`show sntp detail` コマンドを追加しました。

本機能の追加に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。
コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

13 trace コマンドへの any オプション追加

`trace` コマンドに、トレース対象を全て指定する `any` オプションを追加しました。

本機能の拡張に伴いコマンドのオプションパラメーター追加があります。
コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

14 旧バージョンへのダウングレードの禁止

Version 2.0 から Version 1.0 へのダウングレードを行えないようにしました。

reboot、restore、copy の各コマンドで Version 1.0 のシステムソフトウェアまたは設定ファイルを指定した場合、エラーとなります。

IoT セキュリティ対応に伴い、Version 2.0 で一度起動すると本装置の内部フラッシュが暗号化されます。

この状態で Version 1.0 に戻した場合、内部フラッシュを読み出すことができず、本装置が正常に動作できなくなります。

本制限はこれを防ぐためのものです。

本仕様変更に伴い一部コマンドの出力内容の変更があります。

コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

15 コマンドのオプションパラメーター表示順の変更

コマンド入力時に表示されるオプションパラメーター候補の表示順番を、コマンド実行時の入力順に意味があるオプションについては、従来のアルファベットソートではなく入力順のソートとなるように変更しました。

16 syslog メッセージが RFC 準拠となっていない不具合の対処

コンソールログ/ポートログ/コマンドログにおいて日付の前に半角スペースが入っており、各ログの syslog フォーマットが RFC3164 に準拠していない不具合を対処しました。

RFC3164 に準拠したフォーマットで送信する場合、set syslog format rfc3164 を実行してください。

本不具合はシステムソフトウェアが Version 1.0 の場合に発生いたします。

本不具合の修正に伴いコマンドのオプションパラメーター追加、一部コマンドの出力内容の変更があります。

コマンドの詳細については「コマンドリファレンス」を参照してください。

17 REST API でパスワードの文字種違反がエラーにならない不具合の修正

REST API のユーザー作成 (POST /users) およびユーザー編集 (PUT /users/{username}) において、password に使用できない文字を含む値を指定した場合、正常応答が返るにもかかわらずパスワードが設定されない不具合を修正しました。

使用できない文字を指定した場合は、エラーを返すようになりました。

本不具合はシステムソフトウェアが Version 1.0 の場合に発生いたします。

各 API リソースの詳細については「REST API 運用ガイド」を参照してください。

18 本体ログのメッセージ誤記の修正

本装置が出力する一部のログメッセージに誤記があった不具合を修正しました。

本不具合はシステムソフトウェアが Version 1.0 の場合に発生いたします。

以上